

## 令和 6 年能登半島地震

2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震は、能登半島北部を震源として発生した国内最大級の内陸地震 (M7.6) であり、とくに北陸 3 県 (石川県、富山県、新潟県) において甚大な被害が発生しました。今回の地震では、地震動や地殻変動、地盤の液状化に伴う激しい側方流動、中層建築物の倒壊や旧耐震家屋の崩壊などに加えて、地震動と津波両方の外的作用や、斜面崩壊とそれに伴う河道閉塞など、複合災害が発生したことも特徴といえます。さらに道路網やライフラインの復旧が遅れたことも社会的に大きな問題となりました。

地盤工学会では 2024 年 1 月の発災直後から北陸支部内に令和 6 年能登半島地震災害調査団 (金沢大学 小林俊一団長) を組織し、災害情報の収集を開始しました。2 月には調査団を本部組織に移管し、9 部門 (地盤振動、災害レジリエンス・斜面災害、液状化・側方流動、盛土・擁壁・補強土、津波と地盤の相互作用、港湾・空港、宅地、基礎構造物、ライフライン) に分かれて、精力的な災害情報の収集と発信が実施されてきました。2024 年 3 月には「令和 6 年能登半島地震調査報告会」が、また同年 7 月には第 59 回地盤工学研究発表会にて「令和 6 年能登半島地震特別セッション」が開催されました。さらに 2025 年には、調査団のこれまでの活動を踏まえた最終報告が「地盤工学会災害報告論文集」として公開される予定です。本号では最終報告に向けたダイジェスト版と位置づけ、令和 6 年能登半島地震に関わる地盤災害の諸相と特徴について、部門別にご報告いただきました。地震発生から 1 年が経過したこの節目に、地盤工学的な観点から能登半島地震について改めて考える機会としていただければ幸いです。

(豊田 智大, 眞木 陸, 石黒 直紀, 倉澤 智樹, 黒田 卓也, 齋藤 和, 高梨 諒, 陶山 雄介)

学会の動き	年頭の挨拶 渦岡 良介	1
総説	令和 6 年能登半島地震災害調査団の活動 小林 俊一	2
報告	令和 6 年能登半島地震の地震動と地盤震動 後藤 浩之/志賀 正崇/栗間 淳/吉田 望	6
報告	令和 6 年能登半島地震の石川県の主な液状化被害 豊田 浩史/中村 公一/高田 晋	10
報告	令和 6 年能登半島地震における地盤構造物の挙動に関する調査の概要 宮田 喜壽/高原 利幸/新保 泰輝	14
報告	地震・津波の複合外力による地盤構造物の被災 渡邊 健治/川尻 峻三/工代 健太/志賀 正崇/兵動 太一/松田 達也	18

報告	港湾施設の被災状況 渡部 要一／大矢 陽介／千葉 明裕	23
報告	宅地盛土 橋本 隆雄	27
報告	令和6年能登半島地震による杭基礎建物の転倒被害 西岡 英俊／原 隆史／関口 徹／下村 修一／山栗 祐樹	35
報告	令和6年（2024年）能登半島地震によるライフライン被害概要の報告 庄司 学／宮島 昌克／能島 暢呂／飛田 哲男／小野 祐輔／丸山 喜久／ 鋤田 泰子／石川 敬祐／朱牟田 善治／奥津 大	40
講座	個別要素法による地盤材料のモデリングとその応用 第5回 岩の要素試験シミュレーション 清水 浩之／小山 倫史	44

(担当 吉川 絵麻)